

智慧財產局專利公報檢索系統－檢索結果

[注意事項][新的查詢][回上一頁]

第22卷第17期



專利種類：新型

公告編號：249512

公告日期：中華民國 84年06月11日

專利證號：124125

國際專利分類/IPC：F16N7/10

專利名稱：可調流量式注油器

申請案號：83212068

申請日期：中華民國 83年08月19日

發明/創作人：林禎育

發明/創作人地址：台中縣霧峰鄉育群路二三五號

申請人：林禎育

申請人地址：台中縣霧峰鄉育群路二三五號

代理人：田國健

代理人地址：

優先權國家：

優先權日期：

優先權案號：

申請專利範圍：

1.一種可調流量式注油器，包括有油杯、彈簧、擠壓活
塞、油杯底座、加油嘴及流量控調閥等構成，油杯係呈一中空之容器，以透明材質製成，
底端呈一開放狀，頂端鑲設有防阻孔，油杯底座螺接於油杯底端，圓心貫穿有一孔，在油
杯底座側壁設有一注油嘴，其與孔連通，彈簧及擠壓活塞置於油杯內部，彈簧位於擠壓活
塞上方，彈簧之頂端及底端分別定位容置於油杯內部頂端及擠壓活塞頂端，擠壓活塞外徑
設有可供防止溢油之護油環，其特徵在於：

油杯底座下方銜接一流量控調閥，加油嘴銜接於流量控調閥下方，流量控調閥內設有
貫穿之孔，可連通油杯底座及加油嘴，該流量控調閥可調節油流量及作補入新油時鎖定
者。

2.如申請專利範圍第1項所述之可調流量式注油器，其中流量控調閥側壁螺合有一流量調
針，流量調針內端係呈斜度針狀形，外端具有一調柄，藉由調柄之轉動可控制流量調針前
端在孔中之位置，而後以鎖緊螺母鎖固者。

3.如申請專利範圍第1項或第2項所述之可調流量式注油器，其中之流量控調閥上貫穿之
孔呈一斜向設置者。

4.如申請專利範圍第1項所述之可調流量式注油器，其中之防阻孔係設於油杯頂端圓弧邊
緣呈斜度之設置者。

5.如申請專利範圍第1項所述之可調流量式注油器，其中之油杯內部頂面設置定位凹面供
彈簧頂端容置者。

6.如申請專利範圍第1項所述之可調流量式注油器，其中之擠壓活塞底端設有凸面，油杯
底座之相對處設有凹槽，使杯底之油可全部被擠壓用盡者。

7.如申請專利範圍第1項所述之可調流量式注油器，其中之擠壓活塞外徑之護油環設有二
道，以形成雙層防溢作用者。

8.如申請專利範圍第1項所述之可調流量式注油器，其中在油杯底座之加油嘴係設於下部

RECEIVED
DEC 31 2001
TC2800 MAIL ROOM

側壁，油注入時，油可由正下中央往上頂儲者。

9.如申請專利範圍第 1 項所述之可調流量式注油器，其中之加油嘴可依現場需要，作45度、90度、180度等彈性選擇安裝者。} \tt\ait{ 圖一係為一種習知之軸承用注油器平面視圖。

圖二係為本創作之立體外觀視圖。

圖三係為本創作之平面分解視圖。

圖四至圖六係本創作之使用狀態示意圖。

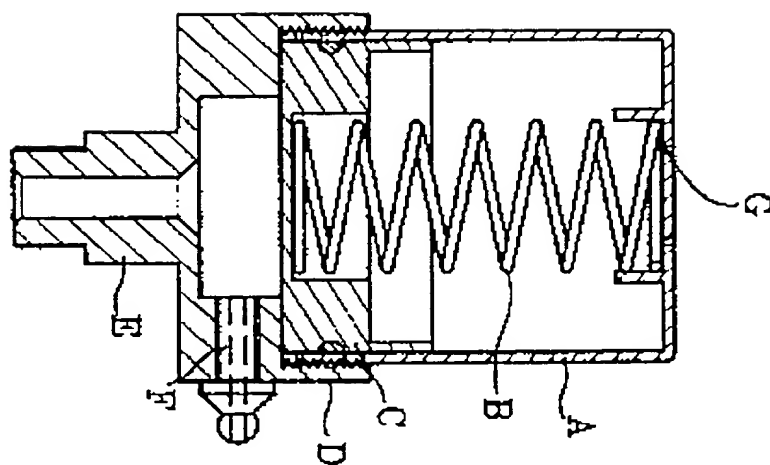
[圖式1](#) [圖式2](#) [圖式3](#) [圖式4](#) [圖式5](#) [圖式6](#)

[\[注意事項\]](#)[\[新的查詢\]](#)[\[回上一頁\]](#)

249512



1



(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-229137

(43)公開日 平成5年(1993)9月7日

(51)Int.Cl.⁵

B 4 1 J 2/175

2/05

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

8306-2C

9012-2C

B 4 1 J 3/ 04

1 0 2 Z

1 0 3 B

審査請求 未請求 請求項の数14(全 10 頁)

(21)出願番号 特願平4-36263

(22)出願日 平成4年(1992)2月24日

(71)出願人 000001007

キャノン株式会社

東京都大田区下丸子3丁目30番2号

(72)発明者 氏田 敏彦

東京都大田区下丸子3丁目30番2号キャノ

ン株式会社内

(74)代理人 弁理士 丸島 儀一

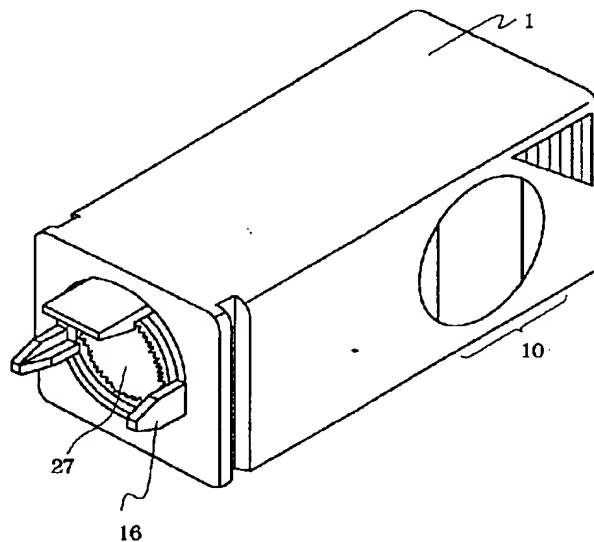
(54)【発明の名称】 液体貯蔵容器、該液体貯蔵容器を有する記録ヘッドユニット、及び該液体貯蔵容器を搭載した記録装置

(57)【要約】

【目的】 液体の貯蔵効率、使用効率が高く、安定した供給を行える液体貯蔵容器、該液体貯蔵容器を有する記録ヘッドユニット、及び該液体貯蔵容器を搭載した記録装置を提供すること。

【構成】 液体を貯蔵した第1の容器を覆うように第2の容器を設け、第2の容器に備えられた弁機構によって、第1及び第2の容器の間の空間の圧力を調整することにより、液体の供給圧を一定範囲に維持して供給を行う構成である。

【効果】 複雑な機構を用いる必要がない為、液体の貯蔵効率、使用効率を高くして、安定した液体の供給を、行わせることができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 液体を貯蔵する第1の容器と、該第1の容器を覆うように第2の容器が配されており、前記第1、第2の容器を通して前記第1の容器に保持された液体を前記第2の容器の外部に導く連通路を有する液体貯蔵容器において、
前記第2の容器は、前記第1の容器と第2の容器との空間に存在する気体の圧力を制御するための弁機構を有していることを特徴とする液体貯蔵容器。

【請求項2】 前記弁機構は、前記空間に存在する気体の圧力が、前記第2の容器の外部の圧力よりも、ある一定以上低くなったとき、前記第2の容器の外部から気体を取り込むよう機能する逆止弁を有している請求項1記載の液体貯蔵容器。

【請求項3】 前記弁機構は、前記空間に存在する気体の圧力が、前記第2の容器の外部の圧力よりも、ある一定以上高くなった時、前記第2の容器の外部へ気体を放出するよう機能する逆止弁を有している請求項1記載の液体貯蔵容器。

【請求項4】 前記弁機構は2つの弁で構成されており、一方の弁は該弁の動作圧以上の圧力が該弁に作用した時に、前記空間に前記第2の容器の外へ気体を導入し、他方の弁は該弁の動作圧以上の圧力が該弁に作用した時に、前記空間から前記第2の容器の外へ気体を放出するように動作し、前記空間の圧力を前記2つの弁の動作圧の差の範囲内に保持する請求項1記載の液体貯蔵容器。

【請求項5】 前記弁機構を構成する弁は、前記第2の容器内部の前記空間と外部とを連通させる連通口と、該連通口に連結した作用部と、該作用部を覆うように配置されたシートを有する請求項1乃至3に記載の液体貯蔵容器。

【請求項6】 前記弁は、該弁を構成する前記第2の容器の一部と前記シートとの間にシーリング液を配置した請求項5記載の液体貯蔵容器。

【請求項7】 前記シートを押圧するための押えを有した請求項6の液体貯蔵容器。

【請求項8】 前記シートの一部と前記第2の容器とを接合した請求項1もしくは請求項4記載の液体貯蔵容器。

【請求項9】 前記第1の容器は柔軟な袋である請求項1もしくは請求項4記載の液体貯蔵容器。

【請求項10】 第1の容器内にインクを保持した請求項1の液体貯蔵容器と、該液体貯蔵容器からインク供給を受け、該インクを用いて記録を行う記録ヘッドとを有する記録ヘッドユニット。

【請求項11】 第1の容器内にインクを保持した請求項4の液体貯蔵容器と、該液体貯蔵容器からインク供給を受け、該インクを用いて記録を行う記録ヘッドとを有する記録ヘッドユニット。

【請求項12】 第1の容器内にインクを保持した請求項1の液体貯蔵容器と、該液体貯蔵容器からインク供給を受け該インクを用いて記録を行う記録ヘッドと、該記録ヘッドを駆動する為の信号供給手段とを有していることを特徴とする記録装置。

【請求項13】 前記記録ヘッドは、供給を受けたインクを被記録媒体に飛翔させて記録を行うインクジェット記録ヘッドである請求項10乃至11に記載の記録ヘッドユニット。

【請求項14】 前記記録ヘッドは、供給を受けたインクを被記録媒体に飛翔させて記録を行うインクジェット記録ヘッドである請求項12記載の記録装置。

【発明の詳細な説明】**【0001】**

【産業上の利用分野】本発明は、液体の貯蔵するための容器に関し、特に、筆記具、インクジェット記録装置、複写機またはファクシミリなどの記録装置において使用されるような、液体貯蔵容器、該液体貯蔵容器を有する記録ヘッド、該記録ヘッドを搭載した記録装置に関する。

【0002】

【従来の技術】液体貯蔵容器から液体の供給を必要とする部位に液体を供給する場合、この液体貯蔵容器と液体の供給を受ける部位の配置高さが異なる場合には、液体の供給を受ける部位の液体には水筒圧が作用してしまう。

【0003】このような水筒圧に伴う影響は、記録を行う分野において、特に重要なものである。

【0004】例えば、液体であるインクを用いて記録を行うインクジェット記録分野においては、インク容器と記録ヘッドとの配置高さが異なることから生ずる水筒圧による記録ヘッドからのインクの漏れや、記録性能変化や、画質不良を防止するため、従来、記録ヘッドの吐出口よりも液体貯蔵容器であるインク容器のインク液面を低い位置に配置していた。このことで記録ヘッド位置でのインクの圧力が外気に対して負圧となるように成されていた。

【0005】しかし、この記録ヘッド位置での負圧発生法では、インク容器を記録ヘッドに対してほぼ所定の位置にインク容器を配さなくてはならず、装置の構成上大きな制約となっていた。

【0006】上記制約を解決する手段として、インク容器内にスポンジなどの多孔質体を配し、これにインクを保持させ、多孔質体の毛間力を利用して負圧を発生させる方法が従来知られている。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】しかし、記録ヘッドに対して適当な性能を維持させるために、多孔質体を高密度に配して使用する必要があるため、インク容器の体積に対して充填できるインクの量が少なくなってしまう。

また、インクが消費されて少なくなるにしたがって多孔質体の毛開力が上昇して、負圧が極端に高くなる結果、インクタンクにインクを残したままインクのヘッド側への供給が止まってしまう。したがって実際に使用できるインク容量は、インク容器の容量に対して少なく、使用効率が低くなってしまふ。このため、ある一定容量のインクの使用が必要な場合には、この分を見込んでインク容器自体を大型化しなければならない、これに伴って、記録装置自体も大型化してしまうという解決すべき課題があった。

【0008】（発明の目的）本発明は、上記従来の技術の有する問題点を鑑みて成されたものであって、適度の負圧発生し、かつ保持した液体の使用効率の高いインクタンクを実現することを目的とするものである。

【0009】

【目的を解決するための手段】上記目的を達成するための本発明の液体貯蔵容器、この液体貯蔵容器を有する記録ヘッド、及びこの記録ヘッドを搭載した記録装置は、液体を保持する第1の容器と、この第1の容器を覆うように配された第2の容器とを、有する液体貯蔵容器において、第2の容器は、第1、第2の容器との間に存在する気体の圧力を調整するための、弁機構を有する液体貯蔵容器であり、この液体貯蔵容器を有する記録ヘッド、及びこの記録ヘッドを搭載した記録装置である。

【0010】その態様として、液体貯蔵容器の弁機構は、第1、第2の容器との間に存在する気体の圧力がインク外部の圧力よりもある一定以上低くなったとき、容器外部から空気を取り込むための逆止弁であっても良い。

【0011】また他の態様として、液体貯蔵容器の弁機構は、第1、第2の容器との間に存在する気体の圧力が貯蔵容器の外部の圧力よりも高くなったとき、貯蔵容器内部から外部へ気体を排出するための逆止弁であっても良い。

【0012】

【実施例】以下に、本発明の実施例を図面に基づいて説明する。

【0013】尚、本発明は記録分野に限られることなく、あらゆる液体の貯蔵容器として有効なものであることは言うまでも無いが、ここでは、記録分野におけるインク容器（インクタンク）を例にとって説明する。

【0014】図1は、本実施例の液体貯蔵容器の模式的な外観斜視図を示している。第2の容器であるインク容器1には、インク容器内の圧力を調整するための弁機構を構成する弁10が設けられている（図1においては、弁は1つしか示されていないが、インク容器内の圧力の調整の行い方によっては複数で合っても良い）。液体であるインクの供給が行われる記録ヘッドとの接続は、コネクタである3本の接続爪16によっておこなわれ、インク供給口27を介して記録ヘッド側にインクの供給が行

われる。

【0015】図2は図1で示したような、インク容器の模式的断面図であり、同図においては弁機構は2つの弁10によって構成されている。同図に示すように、インク容器1は、インク容器内圧と外圧が平行状態においては、密封構造となっている。

【0016】インク容器1の内部には、インクを貯留する第1の容器としてのインク袋2が配置されており、インク袋2の内部からインク5を記録ヘッド側に排出するための排出口3がインク容器2の壁の一部を貫通して設けられている。

【0017】このインク袋は十分柔軟にできているため、インク容器に納められるインクの容量はインク容器の容積とほとんど同じくすることができ、インク容器の容積に対するインクの収容可能容積の割合を、多孔質体を用いる場合に比べ、非常に高くすることができる。従って、このインク容器を搭載する装置をも小型化することができる。

【0018】前述のインク袋内部と、インク袋（第2の容器）とインク容器（第1の容器）に挟まれた空間6の連絡は通常完全に遮断されている。

【0019】このように弁機構を備えた第2の容器であるインク容器と、インクを保持する為の第1の容器であるインク袋との2重構造とし、これらの間の空間6の気体の圧力を調整する構成とすることによって、容器外部へのインクの漏れの心配なしに、インクを供給される側に適切な圧力でインクを供給を行うことができる。

【0020】液体であるインクの供給を受ける記録ヘッドとインク容器との接続が成されていない場合、インク袋内と記録ヘッドとの連通は、押えバネ7等の弾性部材の反発力により、連通路28を閉鎖する方向に常時押圧された状態のボールおよびゴム栓9により閉じられている。

【0021】なお、本図で示す弁機構は、2つの弁によって空間6とインク容器外部との圧力調整を行わしめる例を示しており、同図上部の弁は、空間6からインク容器外部への気体の流出が可能な一方向弁であり、同図右側の弁は、逆方向への気体の流入が可能な一方向弁を設けた場合を示している。弁機構の詳細な説明は後述するが、上述の気体の流通制御の観点から、同図上部の弁においては、連通路11より外部側に、同図右部の弁においては、連通行11より内部にマイラシートが配されている。

【0022】図3は、弁（バルブ）機構を構成する弁10の構成を説明する模式的分解図である。弁10は、連通路11と該連通路に連なる圧力作用部（ $t_2 = 5\text{ mm}$ ）と該圧力室を覆うように配置されるマイラシート12（ $t_1 = 1.5\text{ mm}$, $t_3 = 0.04\text{ mm}$ ）と、および該マイラシートを容器本体へ固定するための押え部材（押え板）13（ $T = 5\text{ mm}$ ）とを有しており、さらに

マイラシートと容器本体との界面（シーリング液塗布面）には、気密性を上げる為のシリコンオイル等のシーリング液14が配置されることによって構成されている。

【0023】これらの部材によって形成された弁（バルブ）10を押え部材の長さ方向の縦断面と横断面を示す図を図4に示す。同図で示される様に、マイラシート12は押え部材13によって連通口を中心に対象となる位置の一部を押えられており、圧力作用室4の部分の覆う部分は押えられていない構成となっている。本実施例の弁においては、連通口11を通して圧力室4に伝えられた圧力によって、押え部材に押えられていないマイラシートの一部が浮き上がることによって、気体が連通口11、圧力室4、インク容器とマイラシートとの透き間を通して解放される。この時のマイラシートの浮き上がりを妨げない様に、また、適当な圧力でマイラシートが浮き上がる様に、図4（a）に示されるごとく、押え部材のマイラシートとの接触面の一部（角部）を、適当な範囲で削除している。

【0024】図5は、本実施例の液体貯蔵容器を記録ヘッド20などの記録部と接続している記録ヘッドユニットの例を示した。この記録部との接続の際、記録部より突き出したパイプ18により、前述した貯蔵容器側のボール8を押えバネ7の押圧力に抗して、インク容器側に押圧し、ボールを連通路28のゴム栓9から離反させ、インクはインク袋から記録ヘッド20に供給可能となる。

【0025】次に本実施例の液体貯蔵容器の動作説明を行う。

【0026】先ず容器内の圧力 P_{out} と容器外部の圧力 P_{in} が等しい場合、例えば本容器が記録ヘッドと未接続状態、あるいは本容器と接続されたインクジェット記録装置などの記録装置が停止状態で、インクの消費は行なわれず、また環境（温度、圧力等）の変化が無い場合においては、2つのバルブ（ V_1 、 V_2 ）のマイラシートはインク容器の一部であるオイル塗布面15とオイルを介して密着しており、容器内部と容器外部は完全に遮断されている。

【0027】つぎに、空間6の圧力 P_{in} が外気圧 P_{out} より低圧の時、例えば記録を開始するとインクは排出口より排出されて消費されていく。このインク消費にしたがって袋の体積は、減少し空間6の圧力 P_{in} は外気圧 P_{out} に対して負圧となる。記録時において、通常インクジェット記録ヘッドのノズル位置での適当な負圧は0～-150mmAqであり、この負圧が大きくなり過ぎると、記録ヘッド部の吐出口からのインクの吐出が良好に行われなかったり、さらには不吐出となってしまう場合もある。初期の負圧が0であったとしても、インクのわずかな消費で速やかに負圧が発生する。インクの消費に伴って空間内の負圧は上昇して行くが、この負圧が記録

に影響を与えない範囲においては、前述の図6（a）の如く、それぞれのバルブ（ V_1 、 V_2 ）は閉じられた状況となっている。

【0028】更にインクが消費されると負圧もさらに増大して行くが、空間6内の負圧が余り大きくならない様にする為に、ある一定差圧（ ΔP_1 ）より負圧が大きくなった場合（ $\Delta P_1 < P_{out} - P_{in}$ ）、つまり、 $P_{out} - P_{in}$ の差圧によってバルブ V_1 のマイラシートに働く力が、シーリング液によるマイラと容器面の密着力やマイラシートを変形させる力等によって決まるバルブ作動圧 ΔP_1 よりも大きくなった場合には、マイラシートの一部が変形することによって、シーリング液塗布面15とマイラシートとが離れ、この透き間を介して、外気がインク容器内部へ導入される（図6（b））。この結果、空間6の負圧すなわちインク袋内の負圧が緩和され、インクの圧力が制御される。また、負圧が緩和されると、前述の差圧によって変形していたマイラシートが元の形状に戻ることによって、再び空間6と外部とは遮断される。なお、このようなバルブ V_1 の動作圧としては、インクの供給が行われる記録ヘッドのノズル位置の圧力が0～-150mmAqとなる様に、設定することが望ましい。一方、ノズル位置での適切な圧力を得る為のタンク内圧は、液体貯蔵容器の配置高さ、供給を受けるノズルの配置高さによって異なるが、両者の配置高さの差によって生ずる差圧に容器内の液体の圧力を加えた値が前述の範囲に入る様に設定すれば良い。

【0029】次に、逆に空気室内の圧力が $P_{in} > P_{out}$ の場合、例えばインクが消費されない状態で外気温度が上昇した場合、空間6内の気体は熱により膨張する為、当然 P_{in} は P_{out} に対して高い圧となる。しかし、上述の様に空間内の圧力と外部との圧力差（ $P_{in} - P_{out}$ ）が、バルブ V_2 の動作圧（ ΔP_2 ）より大きくなった場合、今度はバルブ V_2 が開くことによって空間6と外部とが連通し、空間内の気体の膨張分が外部へ排出される。 P_{in} の圧力、即ちインク袋内の圧力が緩和される。インクジェット記録ヘッドなどの液体の供給を受ける側から液体であるインクが漏れだすことはない。

【0030】なお、バルブ V_2 の作動圧 $\Delta P_2 = P_{in} - P_{out}$ は、0に近ければ近いほど有効であるが、インクの供給が行われる記録ヘッド位置においてインクが漏れない程度の圧力に設定されれば良い。そのような圧力は、用いるインクの性質や記録ヘッドのノズルの状態によって変化するが、ノズル位置での圧力が150mmAq以下となる様に設定されれば良い。

【0031】また例えば、航空機による輸送中のように、本発明の貯蔵容器を取り巻く外圧が変化した場合も、上述したのと同様の動作が行われることによって圧力変化に対応した調整が行われ、圧力変化に伴うインクの漏れ当の防止が成される。

【0032】外圧が空間6の許容し得る圧力より低くな

った場合は、図6(c)で示されるような動作が起こり、逆に外圧が空間6の許容し得る圧力より高くなった場合には図6(b)で示されるような動作が起こる。

【0033】以上の様なバルブV₁とバルブV₂の構成及びその動作圧力は、記録装置の仕様に合わせて適当に調整する必要があるが、本実施例に用いたバルブの場合比較的簡単に設定可能である。

【0034】バルブの動作圧の決定要因としては、圧力作用部のシート面での面積（圧力作用部の面積）、シーリング液塗布面の面積、シートの材質や直径（面積）や

厚み、オイルの材質、押え板で押える範囲や面積、などをあげることができるが、圧力作用部の面積、シートの厚みとシーリング液の粘性以外のパラメータを固定し、これら3つのパラメータを変えることで、容易に動作圧を調整することができる。

【0035】以下の表1に、オイル粘度とシートの厚みと圧力作用部の面積（直径）を変化させたバルブと動作圧力差の関係の例を示す。

【0036】

【表1】

1

表

本実施例1バルブの仕様と動作圧力の関係 単位：[mmAq]					
固定仕様		シート材質	マイラ（厚み0.04mm）		
		シート径	Φ15 [mm]		
		シーリング液	東レシリコンオイル TSF		
作用部径 [mm]		Φ5			Φ7
オイル粘度 [cst]		1000	3000	6000	6000
シート厚 [μm]	40	60	70	80	60
	25	50	60	70	30
	16	10	30	50	10

【0037】このようなバルブを採用した本実施例においては、バルブの動作圧を設定するために、シート面積、シーリング液の物性、圧力作用部径4の面積を変えるだけで容易に任意の圧力に設定することが可能であり、また部品点数も少ないため組み立ても容易なインクタンクを得ることが可能となった。

【0038】なお、上述したバルブを構成するシートと

しては、マイラシートを用いたが、経時変化が少なく、組み合わせられるシーリング液であるオイルに対して侵されないものであり、弾性を示すものであればよい。そのような代表的な材料としては、マイラシートの他にアルミ、リン青銅、ステンレス（SUS）等の金属フィルム、ポリエチレン（PE）、ポリプロピレン（PP）、ポリエチレンテレフタレート（PET）、ポリアミド、

ポリエステルなどのプラスチックフィルム等である。また、その表面荒さは、6.3以下が望ましい。

【0039】シーリング液としては、非揮発性のものであればよいが、バルブの性能安定性を維持する為に、温度-粘度特性がよく、環境変化に強く、酸化や湿潤が少なければよい。そのような材料としては、シリコンオイルの他に、ポリブテン、ポリブタン、テフロン等のオイルがあげられる。

【0040】図7は第2の実施例であり、弁機構をユニット化したものである。

【0041】本実施例においてはインク容器1の一部を構成するユニットホルダ1'にバルブユニット19を保持する構成となっている。バルブユニット内のそれぞれのバルブによって、前述の実施例の如くにインク容器1とインク袋2との間の空間の圧力調整を行っている。

【0042】図8は、バルブユニットの模式的正面図

(a)及び模式的縦断面図(b)、を示している。本実施例のバルブユニットにおいては、先の実施例において示されたような2つの弁を、先の実施例の弁機構と同様の動作を行わせる様に構成している。なお、各符号は先の実施例と同じ機能の部位を示している。

【0043】本実施例の様に弁機構を1つのユニットとすることで、例えばインク容器の外枠の形状によって直接バルブを取りつけられない場合であっても、バルブユニット19だけを別体として組み立て、インク容器に取りつけることが可能であるため、容易にしかも設計の自由度を持たせて液体貯蔵容器を製造することができる。また他の形状の液体貯蔵容器であっても、このバルブユニット適適用するだけでよいので、設計時間が短縮できると共に、同一の工程が利用できるため効率よく製品化できる効果もある。

【0044】図9は第3の実施例であり、別の方式のバルブを採用した液体貯蔵容器の例を示す。ここで弁機構は、柔軟シートで構成される一辺が開いた袋構造のバルブ20、21を有している。それぞれのバルブの片側単部22は、インク容器本体の連通口23に連通されており、反対単部24は開口されている。袋の内面25には先の実施例で用いたような、シーリング剤としての不揮発性のオイル26が塗布されているため、袋の内面は密着し、前述の実施例と同様に、圧力差が大きい状態では、容器外部と内部の気体の流通はない。

【0045】この実施例においても前述の例と同様に、一方のバルブ20が外部からの空気の流入を調整するバルブで、もう一方のバルブ21がインク袋とインク容器との空間から外部への気体の流出を調整するバルブである。本実施例のバルブにおいても、インク容器外部と前記空間との差圧が一定の差圧 $\Delta P_3 = P_{in} - P_{out}$ (バルブ21の場合)、もしくは $\Delta P_4 = P_{out} - P_{in}$ (バルブ20の場合)で、バルブ20及び21の内面25に作用する圧力がオイル26によるシート同士の密着力よ

りも大きくなり、シート同士の密着がはがれ、気体の流通が生じる。この結果、前記実施例と同様に空間の圧力が制御される。

【0046】以上説明した各実施例のように、インク容器内の空間の圧力即ちインク袋内のインクの圧力が、弁機構を構成するそれぞれ2つのバルブの動作圧の差で決定されるため、2つのバルブの動作圧を調整することによってインク容量をインクの残量に関係なく、任意の圧力範囲にインクの圧力を維持することができる。

【0047】なお、上述の実施例では、弁機構を2つのバルブで構成した例を示したが、温度、圧力等の外部環境の変化が少ない場合においては、1つのバルブを有する液体貯蔵容器であってもさしつかえない。

【0048】本発明の液体貯蔵容器は、その大きさや形状等を変化させ、適宜第1の容器や第2の容器の材質等を選択し、またバルブの動作圧を上述の様に調整することによってインク容器のほかにも、液体の漏れの防止や、供給圧の調整の行い易さからガソリンや灯油等の石油類や揮発性や可燃性を伴う液体や、漏れによる危険を伴う薬品等の貯蔵容器として、また安定した供給が望まれる液体の貯蔵容器として広く適用することが可能である。しかし、特にインクジェット記録に用いるインク容器としての適用は、記録ヘッド位置でのメニスカスを保持するに必要な微妙な圧力の調整、インクの使用状態に左右されない安定したインクの供給を行う上で、最も好ましいものである。

【0049】図10は本発明の液体貯蔵容器をインクタンクとして用い、記録ヘッドを一体化させて搭載したインクジェット記録装置IJRAの概観図である。駆動モータ5013の正逆回転に連動して駆動力伝達ギア5011、5009を介して回転するリードスクリュウ5005のらせ線溝5004に対して係合するキャリッジHCはピン(不図示)を有し、矢印a、b方向に往復移動される。5002は紙押え板であり、キャリッジ移動方向にわたって被記録媒体である記録紙をプラテン5000に対して押圧する。本記録装置は、この記録紙に対して記録ヘッドからインクを吐出して記録を行う。

【0050】符号の5007、5008はフォトカブラでキャリッジのレバー5006のこの域での存在を確認してモータ5013の回転方向切換等を行うためのホームポジション検知手段である。5016は記録ヘッドの前面をキャツプするキャツプ部材5022を支持する部材で、5015はこのキャツプ内を吸引する吸引手段でキャツプ内開口5023を介して記録ヘッドの吸引回復を行う。5017はクリーニングブレードで、5019はこのブレードを前後方向に移動可能にする部材であり、本体支持板5018にこれらは支持されている。ブレードは、この形態でなく周知のクリーニングブレードが本例に適用できることはいうまでもない。又、5021は、吸引回復の吸引を開始するためのレバーで、キャ

リッジと係合するカム 5020 の移動に伴って移動し、駆動モータからの駆動力がクラッチ切換等の公知の伝達手段で移動制御される。

【0051】これらのキャツピング、クリーニング、吸引回復は、キャリッジがホームポジション側領域にきたときにリードスクリュー 5005 の作用によってそれらの対応位置で所望の処理が行えるように構成されているが、周知のタイミングで所望の作動を行うようにすれば、本例には何れも適用できる。上述における各構成は単独でも複合的に見ても優れた発明であり、本発明にとって好ましい構成例を示している。

【0052】なお、本実施例の記録装置においては、搭載した記録ヘッドを駆動する為の信号を記録ヘッドに与える記録信号供給手段を有し、記録装置の駆動をつかさどる制御手段を有する制御部を有している。

【0053】また、本装置に搭載したインク容器は、記録ヘッドと一体となったインクジェットヘッドユニットとして構成された例を示したが、これに限らず、インク容器と記録ヘッドが別体で、インク供給路を通して記録ヘッドに供給される形態としてもよいことは言うまでもない。

【0054】上述の様に本発明は、特にインクジェット記録方式の中で熱エネルギーを利用して飛翔液滴を形成し、記録を行うインクジェット記録方式に利用されるインク容器、記録ヘッドユニット、及び記録装置において、特に優れた効果をもたらす。

【0055】その代表的な構成や原理については、例えば、米国特許第 4723129 号明細書、同第 4740796 号明細書に開示されている基本的な原理を用いて行なうものが好ましい。この方式は所謂オンデマンド型、コンティニュアス型のいずれにも適用可能であるが、特に、オンデマンド型の場合には、液体（インク）が保持されているシートや液路に対応して配置されている電気熱変換体に、記録情報に対応して核沸騰を越える急速な温度上昇を与える少なくとも一つの駆動信号を印加することによって、電気熱変換体に熱エネルギーを発生せしめ、記録ヘッドの熱作用面に膜沸騰させて、結果的にこの駆動信号に一対一対応し液体（インク）内の気泡を形成出来るので有効である。この気泡の成長、収縮により吐出用開口を介して液体（インク）を吐出させて、少なくとも一つの滴を形成する。

【0056】この駆動信号をパルス形状とすると、即時適切に気泡の成長収縮が行なわれるので、特に応答性に優れた液体（インク）の吐出が達成でき、より好ましい。このパルス形状の駆動信号としては、米国特許第 4463359 号明細書、同第 4345262 号明細書に記載されているようなものが適している。尚、上記熱作用面の温度上昇率に関する発明の米国特許第 4313124 号明細書に記載されている条件を採用すると、更に優れた記録を行なうことができる。

【0057】記録ヘッドの構成としては、上述の各明細書に開示されているような吐出口、液路、電気熱変換体の組み合わせ構成（直線状液流路又は直角液流路）の他に熱作用部が屈曲する領域に配置されている構成を開示する米国特許第 4558333 号明細書、米国特許第 4459600 号明細書を用いた構成も本発明に含まれるものである。加えて、複数の電気熱変換体に対して、共通するスリットを電気熱変換体の吐出部とする構成を開示する特開昭 59 年第 123670 号公報や熱エネルギーの圧力波を吸収する開孔を吐出部に対応せる構成を開示する特開昭 59 年第 138461 号公報に基づいた構成としても本発明は有効である。

【0058】更に、記録装置が記録できる最大記録媒体の幅に対応した長さを有するフルラインタイプの記録ヘッドとしては、上述した明細書に開示されているような複数記録ヘッドの組み合わせによって、その長さを満たす構成や一体的に形成された一つの記録ヘッドとしての構成のいずれでも良いが、本発明は、上述した効果を一層有効に発揮することができる。

【0059】加えて、装置本体に装着されることで、装置本体との電気的な接続や装置本体からのインクの供給が可能になる交換自在のチップタイプの記録ヘッド、あるいは記録ヘッド自体に一体的に設けられたカートリッジタイプの記録ヘッドを用いた場合にも本発明は有効である。

【0060】又、本発明の記録装置の構成として設けられる、記録ヘッドに対しての回復手段、予備的な補助手段等を付加することは本発明の効果を一層安定できるので好ましいものである。これらを具体的に挙げれば、記録ヘッドに対しての、キャッピング手段、クリーニング手段、加圧或は吸引手段、電気熱変換体或はこれとは別の加熱素子或はこれらの組み合わせによる予備加熱手段、記録とは別の吐出を行なう予備吐出モードを行なうことも安定した記録を行なうために有効である。更に、記録装置の記録モードとしては黒色等の主流色のみの記録モードだけではなく、記録ヘッドを一体的に構成するか複数個の組み合わせによってでもよいが、異なる色の複色カラー又は、混色によるフルカラーの少なくとも一つを備えた装置にも本発明は極めて有効である。

【0061】更に加えて、本発明のインクジェット記録装置の形態としては、コンピュータ等の情報処理危機の画像出力端末として用いられるものの他、リーダと組み合わせた複写装置、更には送受信機能を有するファクシミリ装置の形態を取るものであってもよい。

【0062】

【発明の効果】以上説明したように本発明の液体貯蔵容器は、第 2 の容器内の空間の圧力即ち第 1 の容器内の液体の圧力を適切な圧力に保ちつつ液体の外部への供給が可能であるため、安定した液体の供給を行わせることができる。

【0063】弁機構を採用したことにより、液体の使用効率の良いインク容器を提供できる。

【0064】液体であるインクを保持させる為の多孔質体等を必要としない為、インク容器内の容量を大きくすることができる。このことはつまり、インク貯蔵容器を小型化でき、記録ヘッドユニット、記録装置をも小型にすることが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の液体貯蔵容器の第一の実施例の模式的斜視図。

【図 2】第一の実施例における容器の断面模式図。

【図 3】本実施例のバルブの模式的分解図。

【図 4】本実施例の容器のバルブ位置での断面図

【図 5】液体貯蔵容器を適用した記録ヘッドユニットの断面模式図。

【図 6】本実施例の容器に置ける動作説明図。

【図 7】本発明の液体貯蔵容器の第二の実施例を示す模式図。

【図 8】本実施例のバルブユニットを示す模式図。

【図 9】本発明の液体貯蔵容器の第三の実施例を示す模式図。

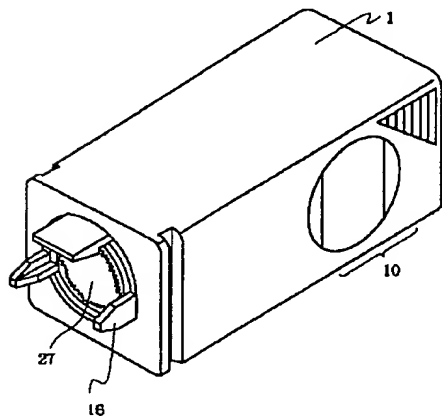
【図 10】本発明の液体貯蔵容器を適用した記録装置の 1 実施例を示す模式図。

【符号の説明】

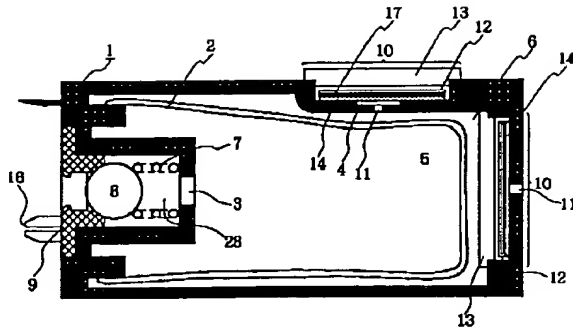
1 容器

2 インク袋
3 排出口
4 作用部
5 インク
6 空間
7 バネ
8 ボール
9 ゴム栓
10 バルブ
11 連通口
12 マイラシート
13 押さえ
14 非揮発性液体
15 シーリング剤塗布面
16 コネクタ
17 記録ヘッド
18 パイプ
19 バルブユニット
20 バルブ
21 バルブ
22 端部
23 連通口
24 反対端部
25 袋内面
26 非揮発性液体

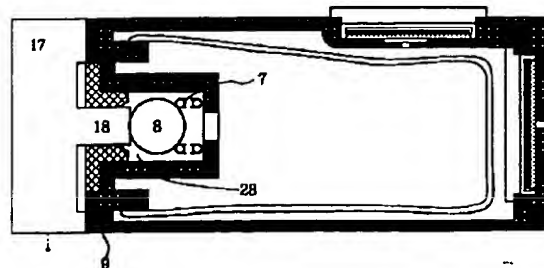
【図 1】



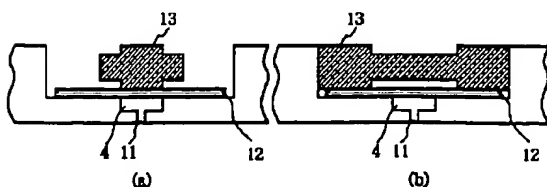
【図 2】



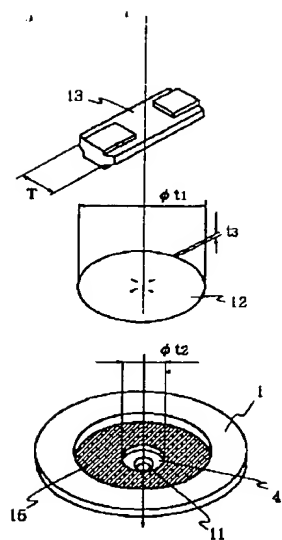
【図 5】



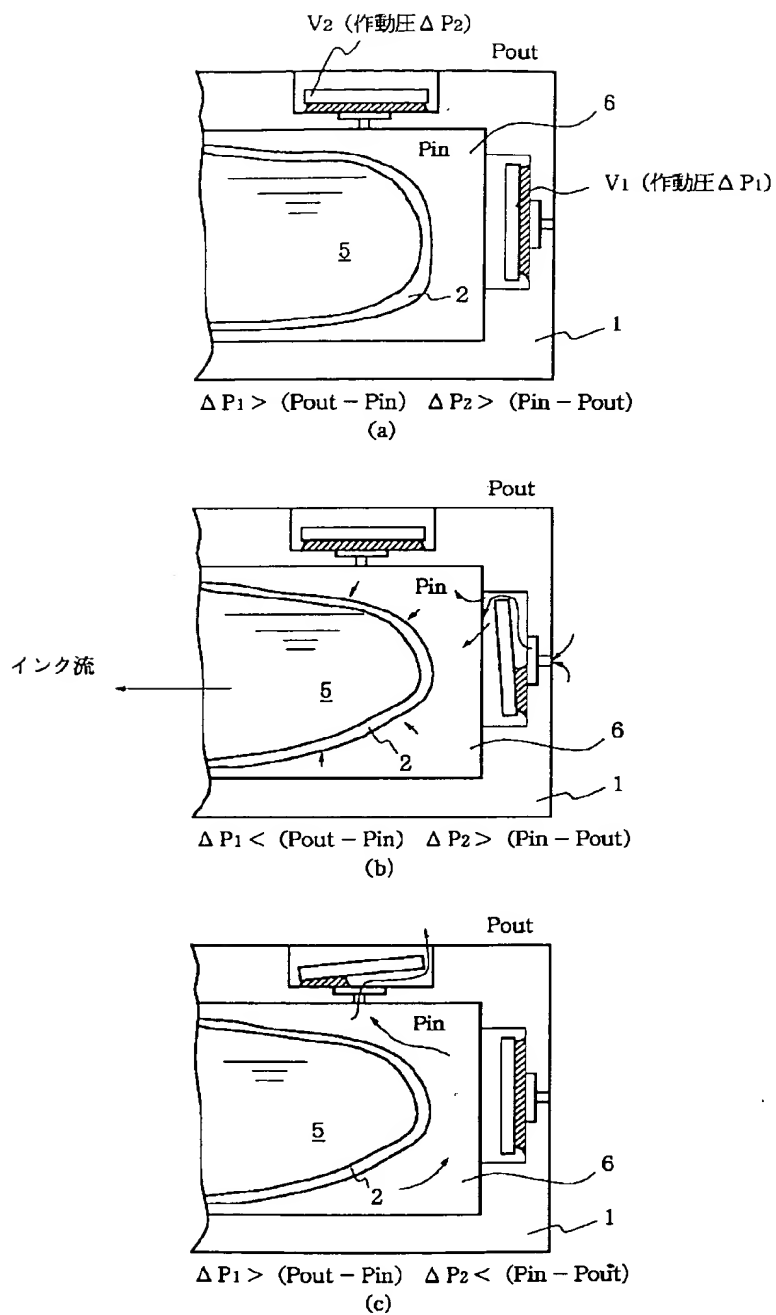
【図 4】



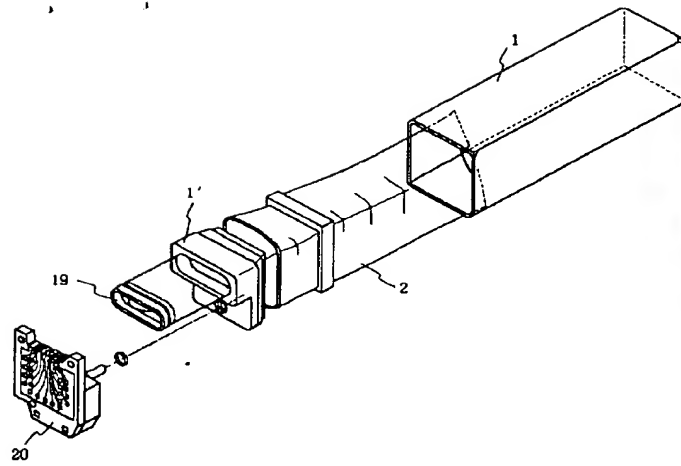
【図 3】



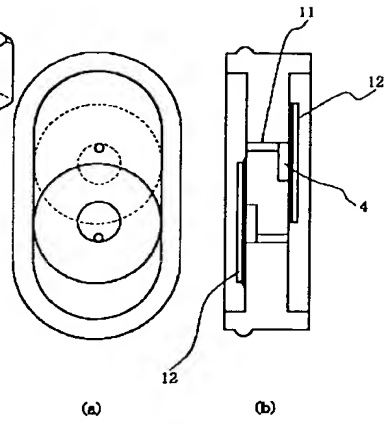
【図 6】



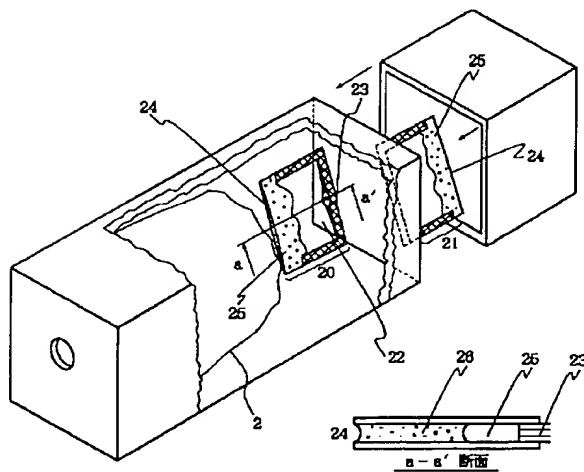
【図7】



【図8】



【図9】



【図10】

